

参考資料


vol.231
市報

みょうこう

6月
2024

未来へつなぐ里山復元

特集 里山の守り人



市公式 LINE を登録すると
市報みょうこうをいつでも
見ることができます。

写真：妙高里山保全クラブ



妙高市は、市域の約7割が森林に覆われている自然豊かなまちです。この雄大な自然と共存していくために欠かせないのが、里山を守ることです。今回は、高床山や小丸山新田丘陵の里山の復元に取り組む環境保全団体の妙高里山保全クラブの活動を紹介します。

人が山に入らなくなると、荒廃する山や森林が増え、生物多様性が失われていくこと、自然災害に影響することや畑を荒らす有害鳥獣の生息域が拡大し、農作物被害が増加することなどが問題となります。自然環境を守っていくためにも、人が山に関わり続けることが必要です。

里山とは、人里の近くにある山や森林です。昔は、人が生活をするために食糧、生活材料、資材や燃料を供給してくれていたせつな場所でした。近年では、生活の変化により里山と人のつながりは途絶えつつあります。

暮らしを支えてきた里山

里山の守り人 未来へつなぐ里山復元



整備した小丸山新田丘陵に咲くササユリ

里山復元への想い

新井地域にある高床山森林公園には、クロメダカやモリアオガエルなどの生物、カキツバタやジュンサイなどの植物などが数多く生息しています。公園内には、キャンプ場、芝生広場やテニスコートなどもあって市民の憩いの森となっています。

かつて高床山は、地域住民にとって欠かせない食料庫の森でした。しかし、ガスや石油などの化石燃料が普及したことで里山林が放置されはじめ、立枯れ木や倒木、笹やぶやつる性植物が所狭しに生い茂るような環境となっていました。

昔のような高床山を取り戻し



復活させたい、子どもたちに自然の魅力を感じさせてやりたいという思いから、新井里山保全クラブ（後に妙高里山保全クラブに改名）が平成16年に発足しました。



里山の再生・保全活動

里山の再生・保全を図るため、クラブは、高床山や小丸山新田丘陵の草刈りや低木の伐採などの環境整備を行っています。

整備した里山では、保育園児や小学生を対象に貴重な植物の保護活動や伐採木を使った炭焼き体験などの環境学習を行い、子どもたちが里山を身近に親しむ機会も提供しています。

取組が評価され内閣総理大臣表彰を受賞

妙高里山保全クラブは、4月26日に東京で行われた全国みどりの式典で、緑化推進運動功労者として内閣総理大臣表彰を受賞しました。里山の再生により地域の価値を高めるだけでなく、子どもの緑化意識の向上や里山整備に関わる人材育成にも貢献していることが評価されました。

式典では、天皇皇后両陛下のご臨席の下、岸田内閣総理大臣と関係大臣などが列席されました。

写真…岸田総理大臣と受賞者との記念撮影（後列右から2番目が沖川会長）



写真：内閣府提供

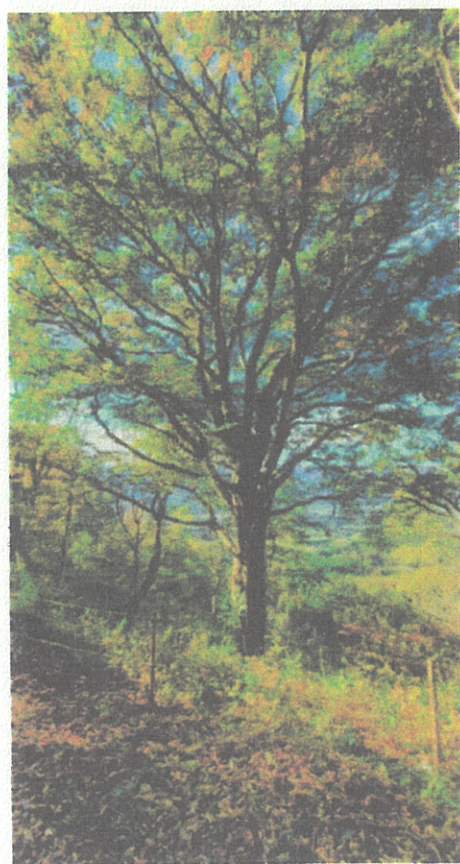
当クラブは、今年でちょうど20年目を迎えます。活力ある森への再生、子どもらが学習で集える森づくりをモットーに、手弁当の精神で取り組んできました。

森を整備するとは言っても、どの土地にも地権者がおられることから、地権者の深いご理解があればこそできる活動であるだけに、改めて心から感謝申し上げます。20年間取り組んでも妙高市の里山全体からすればまだ小さな点にすぎませんが、焦らず、地道に、今後とも里山保全活動に取り組み、妙高市のSDGs運動の一翼になればと思いつつ最善を尽くしてまいりたいと思います。



妙高里山保全クラブ
沖川 庄平 会長

令和6年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金
活動事例集



林野庁

山と子どもの関わりを保ち、森林の多面的機能を保つ

みょうこうさとやま ぼ ぜん

妙高里山保全クラブ

設立年：平成16年 構成員：26名
活動地域：新潟県妙高市
活動実績(令和5年度)：里山林保全(3.0ha)
交付金297千円
連絡先：0255-72-3658
Email: nigo007@joetsu.ne.jp



活動地に隣接するジュンサイ池

活動の概要

新潟県妙高市は、妙高山から高田平野へと緩やかに広がる山すそに位置しています。その中程の標高527mの高床山(たかとこやま)の山腹には、35haの広大な「高床山森林公園」が広がっています。少し離れた「小丸山(こまるやま)新田丘陵」は、妙高山の土石流によって形成された丘陵で市街地に隣接しています。どちらも落葉広葉樹を中心とした森林で、古くから里山林として食糧や資材、燃料等の供給場所として人々の生活と深く関わってきました。近年は里山林としての利用が減り、管理が行き届かず荒廃が目立つようになりました。

こうした状況を受け、妙高里山保全クラブは、人が山に関わり続けることで里山の荒廃を防ぎ、森林のもつ多面的な機能を保つことを目的に、平成16年に設立されました。構成員は現役の市役所職員、教員、主婦のほか、企業や公務員の退職者など26名で、全員が地域在住者です。高床山森林公園と小丸山新田丘陵を対象とした本交付金の活動では、希少植物が生育できる多様性に富んだ森、市民が安心して入れる森を目指し、里山林の間伐、小低木・下草の刈払などを行っています。交付金で整備した森林は、自然体験活動の場として活用され、里山と子どもたちとの関係づくりに結び付いています。

貴重な希少植物が生育する豊かな森の再生

小丸山新田丘陵に貴重な植物が生育する里山環境を再生するため、除間伐やツル性植物の除去、植栽などの保全活動に力を入れています。植物に詳しい会員が中心となり、希少植物の誤刈を防ぐ対策などを行っています。

森林での自然体験の場の創出・活動支援

整備した林内で、学校や保育所向けの自然体験プログラムを実施しています。小丸山新田丘陵は、市内の保育所が通年活用しているほか、高床山森林公園は、近隣の小学校の総合的学習の場となっています。



保育所向け自然体験プログラムの一環で行われた巣箱の設置(上)と森のブランコづくり(左)

活動の成果・効果(アウトプット・アウトカム)

➤ 里山再生で緑化推進運動功労者に

継続的な森林整備と保全活動により林床環境が改善し、ササユリ、アケボノシュスラン、キンラン、ギンラン、ウラジロヨウラク、カタクリなどの希少植物が確認できるようになりました。長年の里山保全活動が評価され、令和6年4月に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受けました。

➤ 子どもたちに森の大切さを伝えています

総合的学習「森の学習」の講師として、市内の小学校で森の大切さを伝えています。令和5年度には、高床山森林公園で小学生らと70本のコナラを植樹しました。また市内5か所の保育所が「森の活動」の場として小丸山新田丘陵を継続的に活用しており、年12回程度、延べ400～500名の園児が訪れています。



ピンク色のリボンは貴重植物保護用のマーキング。右は再生したササユリ

小学生とのコナラの植樹活動

活動上の課題、その対応策等

- 公的支援終了後の活動継続が課題です。整備活動の意義をメンバー間で繰り返し確認し合うとともに、間伐材等の有効活用を図るなどで意識を高め合っていきます。
- 作業には毎回15名程の参加がありますが、新たな会員の獲得も重要です。関心のありそうな人への積極的な声かけの傍ら、市報や広報誌等への掲載を通じて毎年数名の入会者を確保しています。

今後の展開

- 令和7年度より小丸山新田丘陵の末整備林の整備に着手します。コナラを主とした雑木林での枯損木・風倒木の除伐などを行うことで、林床の光環境及び景観の改善を進めていきます。
- 既存の整備地における環境維持活動を継続していきます。市内の保育所の活動の場である小丸山新田丘陵では、安全な環境の維持に重点を置き、刈り払いを行っていきます。



枯損木の伐採作業



森林整備後の様子(小丸山新田丘陵)

他の活動組織への一言アドバイス

昨今は親世代も森林体験が少ないことから、子どもたちの森林体験を通じて、親世代にも関心をもってもらおうという観点にも留意して活動しています。人々の関心を集めるために幅広い世代が魅力を感じる森をテーマとしたプログラムづくりが大切です。

本交付金を利用してよかった!

本交付金で整備できた里山林を活用し、地域の保育所・幼稚園や小学校向けの自然体験活動をより充実することができました。また、ボランティアの方々との継続的なつながりも構築でき、新たな森づくりの仲間を増やすのに大変役立っています。